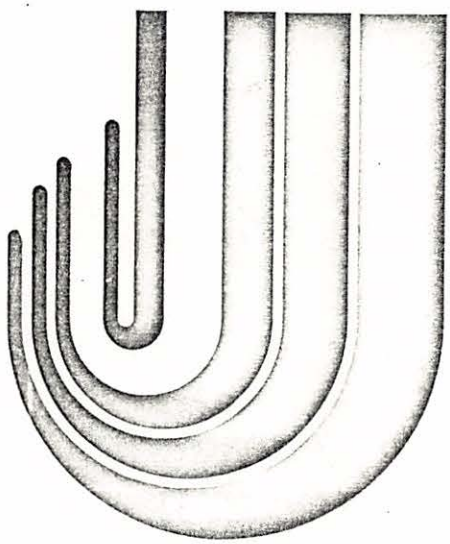
第28回技能五輪国際大会

閉会式プログラム



OSAKA, JAPAN 1985

Closing Ceremony, 28th IVTC
Abschlußzeremonie, 28. IBWC
Cérémonie de clôture, el 28 CIFP
Ceremonia de clausura, 28e CIFP

(財)技能五輪日本組織委員会

閉会式プログラム 1
Closing Ceremony 9
Abschlußzeremonie 17
Cérémonie de clôture 25
Ceremonia de clausura 33

閉会式プログラム

〈と　き〉
1985年10月27日(日)

〈ところ〉
万国博ホール

第２８回　技能五輪国際大会閉会式次第

（ 10月27日午前9時～11時）

司会者　川　上　裕　之

No.1	ファンファーレ		
No.2	開　会　の　辞	日本組織委員会事務総長	石　井　甲　二
No.3	入　賞　者　表　彰	国際組織委員会会長	Francisco ALBERT VIDAL
		日本組織委員会会長	古　賀　繁　一　ほか
No.4	特　別　賞　表　彰	国際組織委員会事務総長	Daniel SOMMER
No.5	大会会長挨拶	国際組織委員会会長	Francisco ALBERT VIDAL
No.6	来　賓　挨　拶	労働事務次官	谷　口　隆　志
		関西経営者協会会長	前　田　義　里
No.7	送　別　の　辞	日本組織委員会会長	古　賀　繁　一
No.8	大会旗引渡し	日本組織委員会会長から	オーストラリア公式代表へ
No.9	閉　会　の　辞	日本組織委員会事務総長	石　井　甲　二

大会会長挨拶

No. 5

フランシスコ　アルバート　ヴィダル

技能五輪国際組織委員会会長

技能五輪国際組織委員会は、勤労は人間の義務である、という考えに基づき、勤労青年の職業訓練に力を入れて参りました。人は、働くことによって初めて自己形成を遂げ知的な面で社会に参加することになります。と同時に、社会生活を送る上で重要な義務を果し、社会の繁栄に貢献するという意味において、勤労は、人の生活に深い関わりを持つものでもあるのです。社会的な観点に立っても、また、個人的な観点に立っても、勤労は義務であります。もちろん、勤労は、社会の生活水準を示す、消費とも深い関係があります。

勤労は、純粋に人間的な創造活動に関与する時、人間の地位を決して下げるのではなく、高めるもの、そして、人間に威信を与えるものとして、人間の特質と考えられます。私達は、労働によって義務を果すとともに個人としての充実感を得るのです。社会の存続は、勤労の賜物であります。つまり、勤労は生産の決定要因であり、経済の主要な推進力となるのです。

何百年もの昔から東西文明の名声高き創始者達が、勤労に関する様々な概念を遺産として残してくれてきました。例えば「神は、勤労を美徳の守護者として創造された」、「勤労を開拓する者は決して他人に悪を行う事はない」、「様々な問題に直面し、緊迫した状況に追いつめられた時、我々を救うのは勤勉さに他ならない」、中には「願わくば、働いている最中に死が訪れますように」と叫んだ者すらあります。

このような労働についての概念は、何ら、新しいものでもなく、また、独創的なものでもありません。にもかかわらず、今一度これを強調いたしますのは、これが、国際組織委員会の基本方針であり、かつ、目標であるからです。

青年が、社会的に意義のある仕事を効率的に行えるようにするためには、教育が必要となります。しかし、職業訓練は、正当な評価も受けず、また、社会の注意をひくこともないというのが、多くの国における実情のようです。つまり、大学教育や、高度技術訓練、科学研究等を優先する国が多いのです。このような面も重要には違いないのですが、しかし、職業訓練を無視、あるいは軽視する国がほとんどであるというのは、残念なこと、と言わざるを得ません。

勤労が健全な社会の発展に貢献するものとするなら、働く人間を育成しない限り目標を達成することはできません。社会が不完全であるとすれば、社会自身がその責任を負うべきなのです。優れた技術を持つ者がなければ、我々が必要とする技術の発展も望めず、従って経済成長もかなわぬ夢に終わってしまうのです。勤労青年の訓練がなければ、彼らの人格形成に手を貸すこともなりません。勤労を義務と考える以上、社会は勤労のもつ意義を尊重し、かつ高めていかねばなりません。そして職業訓練の確固たる地位を築かねばならないのです。

以上述べましたことが、本委員会が現在最も懸念している問題であります。それ故、政府各

機関、経営者団体、労働組合、そして全ての社会に対し、勤労青年の訓練について負うべき責任を認識するよう働きかけるものであります。勤労青年には、健全な社会の発展のため、精神、身体の両面から貢献する権利と義務があるのです。

今大会には307名もの参加を得、本委員会憲章に掲げた大きな目標をまたひとつ達成することができました。本国際組織は、この競技大会の他にも職業訓練の分野で様々な活動を実施又は計画中であり、今後もより多くの国々の参加をもとめて努力いたしていく所存であります。近く実行される計画を、2、3御紹介しましょう。まず、南米諸国に対して技術協力を提供、中南米職業訓練大会に力を入れること。本委員会では、国際労働機関、及び、各経営者団体との合意達成に向けて努力を重ねております。

また、国際労働機関の協力を得て、アフリカ大陸の各国に対し、本委員会への加盟を呼びかけています。

発展途上国に対しては、先進国各国で採用されている職業訓練制度の普及を計り、必要な情報や書類を提供しています。

また、近く、職業訓練世界会議を開催し、以下について報告・提言を行います。

1) 職業訓練の正当な社会的地位確立
2) 最良の職業訓練法に関する情報と書類
3) 職業訓練の指導者養成
4) 絶え間ない技術革新に対する職業訓練の適応
5) 青少年の失業から生じる社会問題とその解決法の提案
6) 職業訓練の出資法における各国、各レベルにおける試み、その他、職業訓練の促進に関する問題

第28回技能五輪に参加された選手諸君、皆さんは、競技において、各々の能力を発揮し、実力を証明されました。今大会への参加は、思い出深い経験となることでしょう。また、忘れ難い友情も生れたことと思います。勤労を通して自らの充実感を得られるものだということを認識されるよう、願って止みません。

入賞された方々には、総会を代表し、心からの祝福を贈ります。と同時に残念ながら入賞されなかった皆さんも、大会に参加したことにより、より高いゴールを目指して、専門知識を更に完璧なものにしようという意欲を得られたことと思います。それ故、やはり、おめでとうの言葉を贈りたいと思います。

エキスパート・審査員各位には、競技の準備から審査まで、大会を円滑に進めるため御尽力下さったことに対し、感謝の意を表するものです。大会期間中に行った、教授法に関する意見交換は、勤労青年の職業訓練の中で必ず生かされるものと確信します。

また、ダニエル・ソンマー事務総長の賢明なる指揮のもとで、管理面及び国際組織委員会と

日本組織委員会の間の調整等において、優れた、しかも効率良い仕事をしてくれた、国際事務局の一同をここに讃えたいと思います。今大会を成功におさめることができたのも事務局の協力に負うところ大であります。

労働大臣、大阪府知事、日本の経営者の方々、並びに、関係者各位には、人財、技術、財政等、各方面における御助力を頂き、感謝の意を表します。特に、古賀会長をはじめ、会長の御指導のもと直接に本大会の実施運営にあたって下さいました　石井、江田、森、宮森、各氏には申し分ない大会を実現して下さった事に感謝申し上げる次第であります。

本大会が、国際組織委員会の基本方針に則ったものであり、青年の職業訓練と健全な社会参加に貢献するものと確信します。

国際組織委員会の名において、ここに第28回国際職業訓練大会を閉会いたします。

来　賓　挨　拶

No 6

谷　口　隆　志
労　働　事　務　次　官

本日ここに第28回技能五輪国際大会の閉会式が挙行されるにあたり、一言御挨拶を申し上げます。

このたびの大会は18の国及び地域から307名の優れた青年技能労働者をはじめ、多数の関係者の御参加を得て行われ、世界の若い技能者の祭典にふさわしく盛大のうちに終了し、本日ここに閉会式を迎えましたことに対しましてお慶びを申し上げます。

私はこの大会において、日頃職場で鍛えられた技能を青年らしい敢闘精神により余すところなく発揮されました選手の皆様の御健闘に対し深く敬意を表しますとともに、映えある入賞の栄誉を受けられました方々に対し心からお祝いの言葉を申し上げます。

本大会は、各国における職業訓練の促進と技能の交流を図るとともに、青年技能労働者の相互理解と友好を図ることを目的としておりますが、国際青年年における我が国のメインエベントにふさわしく、その目的を十分に達成し、世界の平和と繁栄に大きく貢献するところがあったものと確信いたしております。

私は本大会に参加された皆様方が、この大会を通じて得られた成果を技能の一層の向上に活かし各国の産業発展に寄与されますとともに、この大会で芽ばえた友情をより一層深め、またその輪をさらに大きなものとされますよう、心から願うものであります。

終りに、この大会の運営に御尽力された技能五輪国際組織委員会事務局及び各国の関係者各位並びに財団法人技能五輪日本組織委員会をはじめ、地元大阪府や国内関係者の方々に対し心から敬意を表して、私の御挨拶といたします。

来　賓　挨　拶

No. 6

前　田　義　里
関西経営者協会会長

第28回技能五輪国際大会の閉会に当り、経済界を代表してご挨拶を申し上げる機会を得ましたことは、真に光栄かつ欣快に存ずる次第でございます。

去る10月21日、皇太子殿下・同妃殿下のご来臨を仰いで開会されました本大会は、世界18の国及び地域より多数の参加者を得て華々しく開催され、予期以上の成果を収めて滞りなく本日閉会式を迎えられましたことは、ご同慶の至りでございます。

アルベルト、古賀両会長をはじめ、本大会主催・後援の各機関・団体の方のご尽力、ご参加の各国代表役員選手の皆様のご活躍、ならびに寄付、施設提供、選手派遣等についてご協力賜りました各企業・学校等のご厚意に対し、深甚なる敬意と感謝を捧げるものであります。

ご高承のとおり、今や産業技術の進歩発展は目ざましいものがありますが、その根底をなすものは何と申しましても人間の知恵と技能であります。世界の優秀な青年技能者が本大会につどい、技能の競技を通じてお互いに研鑽、交流を深められましたことは、ご参加の方々は勿論、私ども産業界全体にとりましても有益かつ意義深いことであり、職業訓練の振興と国際親善の促進に大きな貢献を果したことと存じ心からお喜び申し上げる次第でございます。

次に、本大会においてそれぞれの国・職場を代表して見事な技能を競われました選手ならびに役員の皆さん、本当にご苦労様でした。本大会において会得されました有形無形の成果を充分に活かしていただき、産業・社会の発展に寄与されますよう、また本大会中に培われましたお互いの友情の絆を太くして国際親善を深めていただくようお願いいたします。

最後に、この度ここ大阪の地にお出でになりました関係の皆様方、どうか大阪をお忘れなきよう、関西新国際空港も出来上がる予定でございますので、近い将来、又のお越しを心からお願いしまして私の餞の言葉といたします。

送　別　の　辞

No. 7

古　賀　繁　一
日本組織委員会会長

第28回技能五輪国際大会が全日程を滞りなく、盛会裡に終えましたことは選手、役員をはじめ関係の方がたの御協力の賜であり、衷心から感謝申し上げます。

本大会は回を重ねるごとに技能の進歩・向上が見られ、また各選手の競技に対する真剣さにも心を打たれるものがありました。選手の皆さんの平素の努力の成果と健闘の姿は、大会関係者に深い感銘を与えました。私たちは心から敬意を表しています。

今日、晴れて受賞の栄に輝かれた方には衷心お慶びを申し上げます。懸命な努力にもかかわらず、受賞に至らなかった方は非常に残念でしたが、この大会を今後の研鑽の契機としていただきたいと思います。

今大会は世界中の数知れぬ多くの人たちの善意と御尽力によってここまで導かれてきました。また、多くの人びとの貴い心の糧にもなったことと思います。

私たちは感謝し、秘かに誇にも思っています。

私は皆さん全員とともにフランシスコ・アルバート会長に賞賛と尊敬の意を表します。

最後に次のメルボルン大会の御成功を祈り、私の閉会の挨拶といたします。

Closing Ceremony

〈Date〉
October 27, 1985

〈Place〉
International Exhibition Memorial Hall

CLOSING CEREMONY

9:00 - 11:00 a.m., October 27

Master of Ceremonies
Hiroyuki Kawakami

No. 1 Fanfare

No. 2 Opening Address
Koji Ishii, Secretary-General, Japan Organising Committee

No. 3 Commendation of Medalists
Francisco Albert Vidal, President of the International Organisation for the Promotion of Vocational Training,
Shigeichi Koga, President, Japan Organising Committee et al.

No. 4 Commendation of Special Award Winners
Daniel Sommer, Secretary-General, International Organisation for the Promotion of Vocational Training

No. 5 Address
Francisco Albert Vidal, President of the International Organisation for the Promotion of Vocational Training

No. 6 Congratulatory Addresses
Takashi Taniguchi, Administrative Vice-Minister for Labour
Yoshisato Maeda, President, Kansai Employers' Association

No. 7 Farewell Address
Shigeichi Koga, President, Japan Organising Committee

No. 8 Transferral of IVTC Flag
From President of Japan Organising Committee to Australian Official Delegate

No. 9 Closing Address
Koji Ishii, Secretary-General, Japan Organising Committee

ADDRESS

FRANCISCO ALBERT VIDAL

PRESIDENT, THE INTERNATIONAL ORGANISATION FOR THE PROMOTION OF VOCATIONAL TRAINING

Your Excellency the Minister of Labour
Your Excellency the Governor of Osaka
Distinguished Director of the Japan Vocational Ability Development Association
Distinguished President of the Kansai Employers' Association
Members of the General Assembly of the International Organisation
Distinguished participants in the Competition
Ladies and Gentlemen

Our International Organisation for the promotion of Vocational Training is active in the field of technical preparation of young workers on the basis that work is a human task. Work forms the human being and establishes an intelligent communication between him and the world. Work is connected with life in a recognized way as it fulfills society's vital necessities and accomplishes general prosperity. This is valid from a social point of view and constitutes an individual duty. Work is in a natural way connected with consumption; it determines the level of social life.

As work is a purely human act of creation, we also consider it to be an attribute of mankind that does not degrade the human being but exalts him and gives him prestige. Through work we reach the individual satisfaction of having fulfilled our duty. Society endures thanks to work because work constitutes a deciding factor in production and is the fundamental impulse of economy.

Hundreds of years ago men of extraordinary prestige, founders of eastern and western civilizations, left us a legacy of their concepts of work. Somebody said: "God made work the guardian of virtue"; "Those who cultivate the field of work do no harm"; and "Hard work vanquishes everything, it helps us to satisfy the necessities created by problems that wear us down". One of these wise men once exclaimed: "Death shall come upon me in the midst of my work!"

We are saying nothing new or original when we mention this moral concept of work, but we want to emphasize it here as one of the principles and objectives our International Organisation is pursuing.

In order to have young people execute their work with efficiency and social meaning, it is necessary to educate them. We observe that in many countries vocational training does not have the right prestige or the social attention it deserves. In most countries preference is given - and that is also fair - to university training, to high-level technical training and to scientific research. It is indeed a pity that in most countries vocational training is neglected or minimized.

If work is to contribute to the well-being of society, we must educate the person who has to do the work. It should be society itself which feels responsible for any deficiency. Without a technically well-trained person we cannot obtain the necessary technological development, and thus neither the economical progress, we desire. If working youth is not trained we do not contribute to their realisation as human beings. If we consider work a duty, society is obliged to dignify it and heighten its prestige. Vocational training should get the status it deserves.

This is one of the main concerns of our International Organisation. We want to influence governmental organisations, employers' associations, trade unions and society at large to accept their responsibilities in the training of the young workman, who has rights but also the obligation to contribute his moral and physical efforts to the general well-being.

We have just heard the results concerning the 307 participants of the 28th International Training Competition. We have once again accomplished the main target set by our Constitution. Our International Organisation is now pursuing further objectives which are meant to promote vocational training in as many countries as possible. Our plans for the near future are as follows.

We want to offer technical cooperation to South American countries and intensify the Latin American Competitions. The Organisation is currently trying to reach an agreement with the International Labour Organisation and the Employers' Organisations.

With the help of the International Labour Organisation we are approaching some countries on the African continent to have them join our Organisation.

We are providing necessary information and documents to developing countries for the enhancement of various vocational training systems now common in most industrialised nations.

We shall organise in the near future a World Congress of Vocational Training in order to discuss the following matters and make recommendations:

A) Adequate social status to vocational training.
B) Information and documents on the best methods of vocational training instruction.
C) Preparation of instructors in vocational training.
D) Adaptation of vocational training to continuous technological progress.
E) The social problems that have derived from juvenile unemployment and recommendations of measures for a solution.
F) Examination of means to finance vocational training in different countries and on all levels, as well as other questions which are of interest for the promotion of vocational training.

Dear participants of the 28th International Vocational Training Competition. Your work has given proof of your capability. The participation has been an unforgettable event for you. You have had the possibility to make friends you will always remember. We hope that this experience has convinced you that work provides personal satisfaction.

In the name of the General Assembly I wish to congratulate those who have received an award and to felicitate those who did not. By participating in this Competition you have become encouraged to reach higher goals and to perfect your knowledge.

Our thanks to the Technical Experts and members of the Jury who for their efficient work in designing and rating your exercises. We hope that the exchange of teaching methods you have seen during the Competition will be useful to you in the vocational training of working youth.

It is only fitting to mention at this occasion the excellent and efficient work of the General Secretariat of our International Organisation. Under the

intelligent direction of Mr. Daniel Sommer and his direct collaborators the members of the Secretariat have proved through their handling of the administrative work and the coordination with the international committees and the National Japanese Committee that they have a very good organisation which has contributed largely to the excellent results of this 28th Competition.

The International Organisation also wishes to thank the Japanese Minister of Labour, the Governor of Osaka and the Japanese employers who have contributed to the success of this 28th International Competition with their efficient collaborators and their personal, technical and financial support; the direct collaborators of the Competition, Messrs. Ishii, Eda, Mori and Miyamori under the wise direction of Mr. Koga, are in part responsible for the perfect organisation and performance we have witnessed these past days.

We hope we have done justice to the fundamental aims of our International Organisation and that in doing so we have contributed to vocational training and the social well-being of youth.

In the name of the International Organisation I declare the 28th International Vocational Training Competition closed.

CONGRATULATORY ADDRESS

TAKASHI TANIGUCHI

ADMINISTRATIVE VICE-MINISTER FOR LABOUR

It is my great privilege to be addressing you today at the closing ceremony of the 28th International Vocational Training Competitions.

With the participation of some 307 young skilled workers from 18 countries and regions and the many other people involved, this competition has come to a splendid conclusion, a much-deserved finale to this festival for young skilled workers of the world.

I would like to pay my compliments to the competitors, who gave their best in competition, demonstrating their well-trained skills to the full, in faith with the strong spirit of youth. I would also like to congratulate those competitors who were honoured with awards.

The goals of this competition were to promote vocational training in our respective countries and to facilitate the exchange of skills and the development of mutual understanding and friendship among young skilled workers. It is my belief that this competition, as Japan's main event of International Youth Year, has achieved these goals perfectly, thereby greatly contributing to the prosperity and peace of the world.

I sincerely hope that every participant will make the best use of the fruit of this competition to improve his or her skills even further and contribute to industrial development in his own country. As well, may all deepen the friendship begun during the competition and widen that friendship among the peoples of the world.

Lastly, in closing, I would like to offer my respects to all those who did so much to make this competition a reality, such as members of the General Secretariat of the IVTC, those involved from abroad, the Japan Organising Committee for the IVTC, our host Osaka Prefecture, and all those concerned here in Japan.

CONGRATULATORY ADDRESS

YOSHISATO MAEDA

PRESIDENT, KANSAI EMPLOYERS' ASSOCIATION

It is a singular honour and great pleasure to have this opportunity to speak on behalf of the economic circle at the closing of the 28th International Vocational Training Competition.

This competition was opened on October 21 under the patronage of Their Imperial Highnesses the Crown Prince and Princess; involving approximately 1,400 people, the opening was glorious. Now we see it brought to a successful conclusion. I would like to offer my heartfelt congratulations to all on the occasion of this closing ceremony.

I wish to express my appreciation to many people: first of all, to President Albert and President Koga, together with all the members of the organisations and associations who sponsored and supported this competition. Secondly, to the delegates, officials, and those from participating countries who competed so energetically. And last, but not least, to all the corporations and institutions who sent competitors, offered financial support and furnished facilities.

As you know, industry and technology today are undergoing spectacular development, and what supports these developments in greatest measure is the kind of wisdom and skill which have been exhibited here.

The young skilled workers from around the world who gathered here to compete have made many new friends and polished their skills through competition. This event has thus been of great benefit not only to them, but also to industrial circles as a whole. I can without hesitation say that this competition has contributed substantially to the promotion of vocational training and international friendship.

Let me as well extend my sincere appreciation to all competitors who so keenly wielded their splendid skills as representatives of their countries, and to all those involved officially. I thank you for showing us a good competition. It is my hope that all of you will continue to help promote the development of industry and society, making full use of what you have gained at this competition, whether tangible or intangible. I ask you please to all do your very best to continue, in this same spirit, to strengthen the spirit of friendship so strongly affirmed by your experiences here.

Lastly, I would ask all of you who have so honoured Osaka with your visit for this competition, to remember us, to remember Osaka and return one day.

FAREWELL ADDRESS

SHIGEICHI KOGA

PRESIDENT OF JAPAN ORGANISING COMMITTEE

The 28th International Vocational Training Competition is here concluding in great success. From the bottom of our hearts, we appreciate the unstinting cooperation of competitors, officials and others concerned.

At each Skill Olympics, progress and improvement in skills have been observed. The attitudes of the participants toward their skills have often impressed us as well.

All competitors in the present competition, having given their best, have accomplished their own goals, which greatly moved all involved. We would like to pay highest tribute to all of them.

Congratulations as well to all those competitors honoured by awards at this event. It is regrettable that some competitors were not so honoured, despite their hard efforts. Their true reward will be no less, however, can they but utilize their experiences at this competition as a stepping stone to achieving the finest work of which they are capable.

The good will and effort of numerous people throughout the world have made this competition the success it is, and we expect it to therefore be all the more remembered. We are thankful, and deeply proud of its success.

With all of you, I would like to express my admiration and respect to President Francisco Albert for his fine endeavours, and in closure of this ceremony, I wish every success for the next competition in Melbourne.

Abschlußzeremonie

‹Datum›
27, Oktober 1985

‹Ort›
Weltausstellungshalle

ABSCHLUßZEREMONIE

Sonntag, den 27. Oktober, 9.00 - 11.00 Uhr

Zeremonienmeister
Hiroyuki Kawakami

Nr. 1 Fanfare

Nr. 2 Eröffnungsrede
Koji Ishii, Generalsekretär des Japanischen Organisationskomitees

Nr. 3 Auszeichnung der Preisträger
Francisco Albert Vidal, Präsidenten der Internationalen Organisation zur Förderung der Berufsbildung,
Shigeichi Koga, Präsident des Japanischen Organisationskomitees

Nr. 4 Auszeichnung der Sonderpreisträger
Daniel Sommer, Generalsekretär des Internationalen Organisationskomitees

Nr. 5 Ansprache
Francisco Albert Vidal, Präsidenten der Internationalen Organisation zur Förderung der Berufsbildung

Nr. 6 Glückwunschansprache
Takashi Taniguchi, Staatssekretär des Arbeitsministeriums
Yoshisato Maeda, Verband der Arbiedgeber in Kansai

Nr. 7 Abschliedsrede
Shigeichi Koga, Präsident des Japanischen Organisationskomitees

Nr. 8 Überreichen der Fahne
Vom Präsidenten des Japanishen Organisationskomitees des Delegationsleiter Australiens überreicht

Nr. 9 Abschlußrede
Koji Ishii, Generalsekretär des Japanischen Organisationskomitees

ANSPRACHE

FRANCISCO ALBERT VIDAL

PRÄSIDENT DER INTERNATIONALEN ORGANISATION ZUR FÖRDERUNG DER BERUFSBILDUNG

Herr Arbeitsminister
Herr Gouverneur der Präfektur Osaka
Herr Direktor des Japanischen Verbandes für die Entwicklung der Berufsbildung
Herr Präsident les Unternehmerverbandes von Kansai
Mitglieder der Generalversammlung der Internationalen Organisation
Liebe jugendliche Wettbewerbsteilnehmer
Meine Damen und Herren

Unsere Internationale Organisation zur Förderung der Berufsbildung betätigt sich aktiv im Bereich der technischen Ausbildung der jungen Arbeiter und geht dabei von der Basis aus, dass die Arbeit eine Aufgabe des Menschen ist. Durch die Arbeit hat der Mensch eine gewisse Kommunikation mit der Welt. Die Arbeit ist verbunden mit dem menschlichen Leben in der Erkenntnis, dass sie die vitalen Bedürfnisse der Gesellschaft erfüllt und den allgemeinen Wohlstand fördert, sozial und individuell gesehen ist dies eine Pflicht. Die Arbeit ist auf natürliche Weise mit unserer Kondition als Verbraucher verbunden, sie bestimmt das Niveau des sozialen Lebens.

Da die Arbeit ein rein menschlicher Schaffensakt ist, ist sie auch ein Attribut des Menschen, das ihn nie erniedrigt, sondern ihn erhöht und ihm Prestige verleiht. Die Arbeit gibt ihm die persönliche Befriedigung, seine Pflicht erfüllt zu haben. Dank der Arbeit ist das Überleben der Menschheit gesichert, denn die Arbeit ist ein entscheidender Faktor in der Produktion und fer fundamentale Antrieb der Wirtschaft.

Seit vielen Jahrhunderten haben uns Männer von weltweitem Prestige als Mitgründer der östlichen und westlichen Zivilisationen die Konzepte, die sie von der Arbeit hatten, als Legat hinterlassen. Da heisst es: "Gott machte die Arbeit zum Wärter der Tugend"; "Wer das Feld der Arbeit bebaut, fugt niemandem Schaden zu"; und "Mit harter Arbeit kann man alles uberwinden, sie trägt zur Befriedigung der Bedürfnisse bei, die nach ermüdenden Schwierigkeiten entstanden sind". Einer dieser Weisen sagte einmal: "Ich wünsche, dass mich der Tod während der Arbeit trifft!"

Wir sagen nichts Neues oder Originelles, wenn wir dieses Konzept der Arbeit erwähnen. Wir wollen damit jedoch die Prinzipien und Ziele bestätigen, die unsere Internationale Organisation zu verfolgen sucht.

Damit man die Arbeit von Jugend auf mit Effizienz und in ihrer ganzen sozialen Bedeutung ausfuhrt, ist es notwendig, den Menschen dazu auszubilden. Es ist ersichtlich, dass die Berufsbildung in vielen Ländern nicht das Prestige und die gesellschaftliche Anerkennung hat, die sie verdient. Die meisten Nationen kümmern sich - und das ist auch gerecht - mehr um die Hochschulausbildung und die wissenschaftliche Forschung, aber beklagenswerterweise wird in vielen Ländern oft die Berufsbildung zurückgesetzt oder für unwichtig gehalten.

Also, wir müssen mit der Arbeit zum Wohlergehen der Gesellschaft beitragen, aber wir werden diesen Wohlstand nie erreichen, wenn wir nicht den Menschen ausbilden, der die Arbeit ausführen muss. Die Gesellschaft selbst muss sich für eine mögliche Deffizienz verantwortlich fuhlen. Ohnen einen menschlich und technisch gut ausgebildeten Arbeiter können wir weder die notwendige technologische Entwicklung noch den gewünschten wirtschaftlichen Fortschritt erreichen. Wenn wir die Arbeit als eine Tugend der Menschen betrachten, ist es Pflicht und Verantwortung der Gesellschaft, der Arbeit Prestige und Würde zu verleihen und der Berufsbildung den Rang zu geben, den sie in der Gesellschaft verdient.

Das ist eins der grössten Anliegen unserer Internationalen Organisation. Wir wollen uns dafür einsetzen, dass die Regierungsstellen, die Unternehmerorganisationen, die Gewerkschaften und die ganze Gesellschaft die Verpflichtung eingehen, den Arbeiter von Jugend an als Menschen auszubilden, der Rechte hat, der aber auch verpflichtet ist, mit seinen körperlichen und geistigen Bemühungen zum Wohl der Gemeinschaft beizutragen.

Wir verfügen bereits über die Prüfungsergebnisse der 307 Teilnehmer des 28. Internationalen Berufswettbewerbs. Damit haben wir das bedeutendste Ziel erreicht, das in unserer Verfassung aufgeführt ist. Neben der Wettbewerbstätigkeit verfolgt unsere Internationale Organisation noch andere Aktivitäten, durch die wir die Berufsbildung in möglichst vielen Ländern der Welt fördern wollen. Für die nächste Zukunft haben wir folgende Projekte.

Wir bieten den südamerikanischen Ländern eine Zusammenarbeit an, wir intensivieren die lateinamerikanischen Wettbewerbe, wir fördern eine Annäherung zwischen unserer Internationalen Organisation, den Unternehmerverbänden und der Internationalen Arbeitsorganisation.

Wir bemühen uns unter Mitwirkung der Internationalen Arbeitsorganisation um eine mögliche Eingliederung der afrikanischen Länder in unsere Organisation. Wir liefern die notwendigen Unterlagen, geben Information und nehmen Kontakte auf, um die verschiedenen in den Industrieländern herrschenden Berufsbildungssysteme in den Entwicklungsländern zu verbreiten.

Wir wollen in Kürze einen Weltkongress der Berufsbildung organisieren, um über folgende Fragen und die entsprechenden Empfehlungen zu orientieren:

A) Erlangung eines guten sozialen Rangs für die Berufsbildung
B) Information und Dokumentation uber die besten Lehrmethoden in der Berufsbildung
C) Ausbildungsmethoden der Lehrtätigen in der Berufsbildung
D) Anpassung der Berufsbildung an den ständigen technologischen Fortschritt
E) Das durch die Jugendarbeitslosigkeit in vielen Ländern entstandene soziale Problem und Vorschläge zu möglichen Lösungen.
F) Überprüfung der Finanzierungsmöglichkeiten der Berufsbildung in den einzelnen Ländern auf allen Ebenen. Andere Themen, die zur Förderung der Berufsbildung der Jugend beitragen könnten.

Liebe jugendliche Teilnehmer des 28. Internationalen Wettbewerbs. Ihr habt mit den Arbeiten, die Ihr ausgeführt habt, Eure Fähigkeiten unter Beweis gestellt. Die Teilnahme war für Euch ein unvergessliches Erlebnis. Ihr habt die Möglichkeit gehabt, Freundschaften zu schliessen, die Euch für immer in Erinnerung bleiben werden. Wir hoffen, Ihr nehmt die Überzeugung mit nach Hause, dass die Arbeit persönliche Befriedigung bereitet.

Den Preisträgern spreche ich im Namen der Mitglieder der Internationalen Organisation unseren Gluckwunsch aus. Aber auch denjenigen, die keine Auszeichnung bekommen haben, gratulieren wir; schon durch Eure Teilnahme an dem Wettbewerb habt Ihr einen Anstoss bekommen, Eure Ziele höher zu stecken und Eure Kenntnisse zu verbessern.

Wir danken den Technischen Experten und Jurymitgliedern, die die Aufgaben gestellt und bewertet haben, für ihre effiziente Arbeit, und wir hoffen, dass der durch die Wettbewerbe ermöglichte Austausch der Lehrverfahren Ihnen zur Vertiefung und Perfektionierung Ihrer Kenntnisse in der Berufsbildung der arbeitenden Jugend nützlich sein wird.

Es ist nur gerecht, wenn ich bei dieser Gelegenheit die verdienstvolle und effiziente Arbeit des Generalsekretariats unserer Internationalen Organisation hervorhebe. Unter der intelligenten Leitung von Herrn Daniel Sommer und seinen direkten Mitarbeitern stellte das Sekretariat durch seine Verwaltungsarbeit und die Koordination mit den internationalen Komitees und dem nationalen japanischen Komitee den Beweis für eine gute Organisation, die zu den ausgezeichneten Resultaten dieses 28. Wettbewerbs sehr beigetragen hat.

Zum Abschluss möchte die Internationale Organisation auch mehreren Beteiligten ihren Dank aussprechen. Dem japanischen Arbeits-minister, dem Gouverneur von Osaka und den japanischen Unternehmern, die mit ihrer effizienten Gruppe von Mitarbeitern und ihrer personlichen, technischen und finanziellen Unterstützung zum grossen Erfolg dieses 28. Wettbewerbs beigetragen haben; den direkten Mitarbeitern des Wettbewerbs für die perfekte Abwicklung und Organisation, die wir in diesen Tagen sehen konnten, den Herren Ishii, Eda, Mori und Miyamori unter der weisen Leitung von Herrn Koga.

Wir hoffen, wir haben in den fundamentalen Zielen unserer Internationalen Organisation den hohen Anteil erreicht, den wir erreichen wollten. Wir freuen uns, zur Ausbildung und dem sozialen Wohlergehen der Jugend beitragen zu konnen.

Wir hoffen, wir sind den fundamentalen Zielen unserer Internationalen Organisation voll und ganz gerecht geworden, und wir freuen uns, damit zur Ausbildung und dem sozialen Wohlergehen der Jugend beigetragen zu haben.

Im Namen der Generalversammlung der Internationalen Organisation erkläre ich den 28. Internationalen Berufswettbewerb für beendet.

GLÜCKWUNSCHANSPRACHE

TAKASHI TANIGUCHI

STAATSSEKRETÄR DES ARBEITSMINISTERIUMS

Es ist mir eine Ehre, anläßlich der heutigen Abschlußzeremonie des 28. Internationalen Berufswettbewerbs zu Ihnen sprechen zu dürfen.

Heute geht dieses Festival, an dem etwa 307 fähige, junge Arbeiter sowie eine Vielzahl von Begleitpersonen aus 18 Ländern teilgenommen haben, mit dieser Abschlußzeremonie feierlich zu Ende.

Ich möchte allen Wettbewerbsteilnehmern mein Lob dafür aussprechen, daß sie im Wettkampf ihr Können am Arbeitsplatz mit dem der Jugend eigenen Kampfgeist so hervorragend zur Geltung bringen konnten. Besonders möchte ich all denen gratulieren, die mit Preisen ausgezeichnet wurden.

Dieser Wettbewerb hat die Förderung der Berufausbildung in den teilnehmenden Ländern und das gegenseitige Kennenlernen verschiedener Arbeitstechniken zum Ziel. Darüber hinaus soll er das kulturelle Verständnis und die Freundschaft unter den jungen Arbeitern fördern und vertiefen. Ich bin der Überzeugung, daß dieser Wettbewerb, der in Japan das Hauptereignis im Internationalen Jahr der Jugend darstellte, dieses Ziel mehr als erreicht hat und so viel zum Wohle und friedvollen Zusammenleben der Menschen auf der Welt beigetragen hat.

Ich hoffe, daß alle Teilnehmer mit den während dieses Wettbewerbs gemachten Erfahrungen ihre Fertigkeiten weiter verbessern und so zur industriellen Entwicklung ihres Landes beitragen können. Bitte pflegen Sie die während dieses Wettbewerbs enstandenen Freundschaften, und erweitern Sie diesen Freundschaftskreis, wo immer Sie die Möglichkeit dazu haben.

Zum Schluß meiner Rede möchte ich dem Generalsekretariat des IBW, den Funktionären aus dem Ausland, dem japanischen Organisationskomitee des IBW, sowie der Gastgeberpräfektur Osaka und unzähligen Helfern in Japan, die zusammen für den reibungslosen Ablauf dieses Wettbewerbs sorgten, meine besondere Anerkennung aussprechen.

GLÜCKWUNSCHANSPRACHE

YOSHISATO MAEDA

VERBAND DER ARBIEDGEBER IN KANSAI

Es ist für mich eine große Ehre, zum Ende dieses 28. Internationalen Berufswettbewerbs als Vertreter der Wirtschaft zu Ihnen sprechen zu können.

Dieser Wettbewerb mit 1400 Teilnehmern aus 18 Ländern wurde am 21. Oktober in Anwesenheit Ihrer Kaiserlichen Hoheiten, dem Prinzenpaar eröffnet. Ich möchte Ihnen anläßlich der heutigen Abschlußzeremonie meine herzlichsten Glüchwünsche für die erfolgreiche Durchführung der Wettbewerbe aussprechen. Vielen Personen gilt hierfür unsere Anerkennung und unser Dank: Präsident Albert und Präsident Koga, zusammen mit den Mitgliedern all der Organisationen und Vereinigungen, die diesen Wettbewerb unterstützten; den Delegierten, Offiziellen und Wettbewerbsteilnehmern aller Länder, die aktiv an diesem Wettbewerb beteiligt waren, und schließlich den Unternehmen und Institutionen die finanzielle Unterstützung gewährten, Einrichtungen zur Verfügung stellten und Wettbewerbsteilnehmer entsandten.

Industrie und Technik entwickeln sich heutzutage in atemberaubendem Tempo. Entscheidend für den technischen Fortschritt ist jedoch das Wissen und das Können gut ausgebildeter Mitarbeiter.

Bestens geschulte junge Arbeiter aus der ganzen Welt kamen zu diesem Wettbewerb zusammen, lernten während des Wettkampfes vieles hinzu und schlossen neue Freundschaften. Es war nicht nur für die Teilnehmer, sondern auch für die Beobachter aus der Industrie eine sehr lehrreiche Veranstaltung. Ich bin der Überzeugung, daß das Festival wesentlich zur Förderung der Berufsausbildung und zur internationalen Völkerverständigung beigetragen hat.

Meine besondere Anerkennung möchte ich allen Wettbewerbsteilnehmern aussprechen, die als Vertreter ihrer Länder und Betriebe ihr Können so hervorragend demonstrieren konnten. Mein Dank gilt den Organisatoren und ihren vielen Helfern, die für einen reibungslosen Ablauf des Festivals gesorgt haben.

Es ist meine aufrichtige Hoffnung, daß Sie alle bei der weitern Entwicklung von Industrie und Gesellschaft Ihren Beitrag leisten können, indem Sie die Erfahrungen, die Sie bei diesem Wettbewerb gemacht haben, sinnvoll einsetzen.

Bitte erweitern Sie den internationalen Kulturaustausch, indem Sie die Freundschaften, die Sie während dieses Wettbewerbs geschlossen haben, auch in Zukunft weiter pflegen.

Ich möchte meine Rede in der Hoffnung beenden, daß Sie Osaka in guter Erinnerung bewahren und bald einmal wieder hierherkommen.

ABSCHLIEDSREDE

SHIGEICHI KOGA

PRÄSIDENT DES JAPANISCHEN ORGANISATIONSKOMITEES

Nach reibungslosem Ablauf geht heute der 28. Internationale Berufswettbewerb seinem Ende entgegen. Sein großer Erfolg beruht nicht zuletzt auf dem guten Zusammenwirken von Wettbewerbsteilnehmern, Offiziellen und allen andieren Beteiligten, wofür ich Ihnen meinen Dank aussprechen möchte.

Wie bei jeder Neuauflage dieses Wettbewerbs konnten auch diesmal große Fortschritte und Verbesserungen gegenüber dem Vorjahr beobachtet werden und wir waren sehr beeindruckt vom Ehrgeiz der Teilnehmer im Wettkampf.

Die außerordentlichen Bemühungen und der Kampfgeist aller Teilnehmer hat bei uns allen einen starken Eindruck hinterlassen. Auch hierfür möchten wir Ihnen allen unsere Anerkennung aussprechen.

Meine herzlichen Glückwünsche all denen, die mit einem Preis ausgezeichnet wurden. Und den Teilnehmern, die trotz ihres großen Eifers keinen Preis erringen konnten, möchte ich sagen: Bitte denken Sie an all die neuen Erfahrungen, die Ihnen für Ihre weitere Zukunft sicher von Nutzen sein werden.

Die Zusammenarbeit und die Bemühungen vieler Personen aus der ganzen Welt haben dem Wettbewerb zu seinem Erfolg verholfen. Wir hoffen, daß dieses Festival allen in guter Erinnerung bleiben wird. Wir freuen uns und sind auch ein bißchen stolz darauf, daß dieser Wettbewerb so erfolgreich war.

Zusammen mit allen hier Anwesenden, möchte ich dem Präsidenten Francisco Albert Vidal meine Hochachtung und meinen Respekt aussprechen. Zum Schluß möchte ich dem nächsten Wettbewerb in Melbourne gutes Gelingen wünschen.

Cérémonie de clôture

‹Date›
le 27 October 1985

‹Place›
Palais des Expositions Internationales

CEREMONIE DE CLOTURE

Le 27 octobre, 9h à 11h

Maître de Cérémonie
Hiroyuki Kawakami

N° 1. Fanfare

N° 2. Allocution de Clôture
Koji Ishii, Secrétaire général du Comité d'Organisation Japonais

N° 3. Proclamation des Médaillés
Francisco Albert Vidal, Président de l'Organisation Internationale chargée de promouvoir la Formation Professionnelle,
Shigeichi Koga, Président du Comité d'Organisation Japonais et al.

N° 4. Distribution des Prix Spéciaux
Daniel Sommer, Secrétaire général de l'Organisation Internationale chargée de promouvoir la Formation Professionnelle

N° 5. Allocution du Président du Concours
Francisco Albert Vidal, Président de l'Organisation Internationale chargée de promouvoir la Formation Professionnelle

N° 6. Allocution de Félicitations
Takashi Taniguchi, Secrétaire d'Etat du Travail
Yoshisato Maeda, Président de l'Association de Patronat du Kansai

N° 7. Allocution d'Adieu
Shigeichi Koga, Président du Comité d'Organisation Japonais

N° 8. Remise du Drapeau du Concours
Du Président du Comité d'Organisation Japonais au Délègué d'Australie

N° 9. Allocution de Clôture
Koji Ishii, Secrétaire général du Comité d'Organisation Japonais

ALLOCUTION

FRANCISCO ALBERT VIDAL

PRESIDENT DE L'ORGANISATION INTERNATIONALE CHARGEE
DE PROMOUVOIR LA FORMATION PROFESSIONNELLE

Monsieur le Ministre de Travail
Monsieur le Gouverneur d'Osaka
Monsieur le Directeur de l'Association Japonaise pour le Développement de la Formation Professionnelle
Monsieur le Président de l'Organisation Patronale de Kansai
Messieurs les Délégués de l'Assemblée Générale de l'Organisation Internationale
Chers jeunes qui allez participer à ce Concours
Mesdames, Messieurs

Notre organisation internationale chargée de promouvoir la formation professionnelle et les concours internationaux de formation professionnelle destinés à la jeunesse organise des activités fondées sur l'utilité de la formation technique du jeune travailleur, car le travail implique une tâche humaine; dans le travail se reflète la personnalité de l'homme, le travail crée une communication perceptible entre les hommes, les choses et leur entourage. Le travail constitue un lien avec la vie humaine, c'est une forme des besoins vitaux reconnus par la société qui permet d'aboutir à un bien commun, puisque socialement c'est un devoir et individuellement une obligation. Le travail est un lien naturel entre la condition propre du consommateur et un niveau de vie social précis.

De même, le travail est un attribut de l'homme, puisqu'il intervient comme action créatrice dans le domaine purement humain, il ne dégrade pas sa condition d'homme, mais il l'ennoblit et lui confère du prestige. Le travail nous permet d'atteindre la satisfaction individuelle du "devoir accompli". Grâce au travail, la société survit, puisqu'il est le facteur déterminant de la production et le moteur fondamental de l'économie.

Depuis des siècles, des hommes d'un prestige sans pareil, en qualité de coauteurs de la civilisation d'Orient et d'Occident, nous ont légué leurs concepts du travail. Il a été dit que "Dieu a fait de travail la sentinelle de la vertu" et "Qui cultive les champs du travail ne fait du tort à personne", que "Le travail aride permet de tout surmonter, il nous aide à satisfaire les besoins crées par les problèmes qui nous épuisent" et un de ces ancêtres si sages s'est exlamé: "Que la mort nous fauche en plein travail!"

En vous exposant ces concepts moraux sur le travail, je ne prétends être ni novateur, ni original, par contre, nous voulons baser là-dessus les principes et les objectifs que s'est fixé notre organisation internationale.

Pour exercer le travail depuis la plus tendre jeunesse avec efficacité et transcendence sociale, il faut préparer l'homme pour sa tâche future. Nous constatons que dans de nombreux pays, l'enseignement professionnel ne jouit ni du prestige qu'il mérite, ni d'une attention sociale adéquate. Dans la plupart de ces pays, on se consacre de préférence - et c'est juste - à l'enseignement universitaire, aux grandes écoles, à la recherche scientifique, étc., mais, hélas, dans cette majorité de pays l'enseignement de formation professionnelle est marginalisé ou ramené à son expression minimale.

Si le travail, dans toutes ses acceptations, doit contribuer au bienêtre de la société, nous n'y parviendrons jamais sans former les hommes qui devront l'exercer. La société elle-même est responsable d'éventuelles lacunes. Sans un travailleur bien formé du point de vue téchnique et humain, nous ne parviendrons à pas l'essor technologique nécessaire et, en conséquence, nous n'atteindrons pas non plus le progrès économique voulu qui s'impose. Si nous ne formons pas le travailleur, nous ne faciliterons pas son épanouissement humain. Si

nous jugeons le travail comme un attribut humain et comme une vertu de la personne, il incombe à la société de retrouver sa dignité et son prestige en accordant a toute formation le rang social qu'il mérite.

Voilà la préoccupation essentielle qui motive notre organisation internationale. Nous voulons créer et promouvoir l'environnement précis pour les organisations gouvernamentales, le patronat, les syndicats et la société dans son ensemble à fin qu'ils assument les obligations et les responsabilités nécessaires pour former le travailleur dès sa jeunesse, en faire un homme capable d'affronter ses droits et ses devoirs et de contribuer au bien commun par son effort moral et physique.

Nous venons de connaître les résultats obtenus par les 307 participants au 28 ième concours international de formation professionnelle. Ainsi nous avons atteint le but primordial retenu dans notre constitution et régissant le concours de notre organisation internationale. Mais d'autres objectifs nous tiennent à coeur, la promotion de la formation professionnelle dans le plus grand nombre de pays possibles. A cette fin, nous comptons mettre en oeuvre les projets suivants.

Offrir notre coopération au pays d'Amérique du Sud, étayer les concours existants déjà en Amérique Latine; organiser une collaboration tripartite entre l'organisation internationale du travail (OIT), le patronat et notre organisation internationale.

Gérer en coopération avec l'OIT l'intégration future dans notre organisation internationale des pays du continent africain.

Etablir les contacts nécessaires, la documentation et les informations pertinentes pour encourager l'expansion des différents systèmes de formation professionnelle que possèdent les pays à grand potentiel industriel et les promouvoir également dans les pays sous-développés ou en voie de développement.

Organiser dans un avenir proche, un congrès mondial de formation professionnelle pour diffuser les orientations futures de notre organisation internationale selon les recommandations suivantes:

A) Placer l'enseignement professionel au rang social correspondant.
B) Adopter les moyens d'information et de documentation selon les méthodologies optimales de cet enseignement.
C) Etudier la préparation des formateurs.
D) Planifier l'adaptation de la formation professionnelle au progrès technologiques constants.
E) Analyser le problème social découlant du chômage juvénil dans de nombreux pays et recommander des solutions possibles pour y rémédier.
F) Evaluer les attentios nécessaires à tous les niveaux de cet enseignement et de son financement et d'une mainère générale, réunir tous les critères qui interviennent dans la formation professionnelle des jeunes.

Chers jeunes que vous avez participés à ce 28ième Congrès International de Formation Professionnelle. Vous avez prouvé vos capacités dans l'éxécution de vos travaux. Votre participation vous a permis une coéxistance inoubliable, vous avez noué des liens d'amitié, sans nul obstacle, que résisteront au passage du temps et qui resteront un souvenir précieux pour vous tous. Certes, vous êtes parvenus à la conviction que le travail offre des satisfactions personnelles.

Nous félicitons cordialement les gagnants au nom de toute l'organisation internationale. Et ceux qui n'ont pas obtenu de prix reçoivent également nos félicitations: le simple fait de participer au concours, vous a incité à poursuivre des objectifs plus ambitieux et à parfaire vos connaissances.

Messieurs les experts techniques, Messieurs les membres du jury, responsables de l'organisation des épreuves et de leur taxation, nous voudrions également vous adresser notre reconnaissance pour votre travail ardu, et nous souhaitons que cet échange de méthodologies et d'enseignement qui découle du congrès vous résulte utile pour intensifier et parfaire vos connaissances dans votre propre tâche de formation que vous exercez auprès de la jeunesse qui travaille.

Je crois qu'il n'est que juste de reconnaître à cette occasion, le travail méritoire et efficace de secrétariat général de notre organisation internationale, sous la direction intelligente de M. Daniel Sommer et de ses collaborateurs les plus immédiats. Toute sa fonction administrative et coordinatrice avec les comités internationaux et avec le comité national japonais constitue un exemple de bonne organisation, renforçant considérablement les résultats optimaux, appréciés par tous, lors de ce 28ième concours.

Et pour terminer, il est juste d'exprimer les remerciements de notre organisation internationale a M. le Ministre du Travail, M. le Gouverneur d'Osaka et à tout le groupe de collaborateurs si efficaces qui, par leur effort personnel, technique et économique ont permis la réussite de ce 28ième concours. Nous remercions également les responsables directs du déroulement et de l'organisation parfaits de ces journées de concours, Messieurs Ishii, Eda, Mori et Miyamori, sous la direction habile de M. Koga, que nous félicitons effusivement et avec notre gratitude la plus totale.

Nous espérons avoir atteint de plus près encore les objectifs fondamentaux que notre organisation internationale s'est fixés, dans l'illusion de rendre un service à la jeunesse, contribuant à sa formation et à son bienêtre social.

Au nom de l'assemblée générale de l'organisation internationale, je déclare clos le 28ième concours international de formation professionnelle.

ALLOCUTION DE FELICITATION

TAKASHI TANIGUCHI

SECRETAIRE D'ETAT DU TRAVAIL

Je suis très heureux de m'adresser aujourd'hui à vous lors de cette cérémonie de clôture du 28ème Concours International de Formation Professionnelle, concours qui a eu lieu avec la participation de 307 jeunes travailleurs de 18 pays et régions différents et de nombreuses personnes concernées. Cette manifestation est arrivée à son terme avec un succès mérité pour ce festival destiné aux jeunes travailleurs spécialisés du monde.

Je voudrais adresser tous mes compliments aux concurrents qui ont fait preuve dans ce concours à la fois de leur habileté professionnelle et de l'esprit combatif propre à la jeunesse. Je voudrais également féliciter tous les concurrents à qui des prix ont été décernés.

Ce concours avait pour objet de promouvoir la formation professionnelle dans tous les pays et de faciliter les échanges techniques ainsi que la compréhension et l'amitié entre les jeunes travailleurs spécialisés. Je suis persuadé que cette manifestation, qui a été l'événement le plus important au Japon durant cette Année Internationale de la Jeunesse, a parfaitement atteint ses objectifs et a largement contribuée à la prospérité et à la paix mondiale.

J'espère sincèrement que tous les participants sauront tirer le meilleur profit des enseignements de ce concours afin d'améliorer encore leurs techniques professionnelles et de contribuer au développement industriel de leurs pays. Je souhaite que les amitiés développées pendant ce concours iront en s'approfondissant et qu'elles progresseront entre les peuples du monde entier.

En dernier lieu, je voudrais présenter mes respects aux personnes qui ont fait des efforts considérables pour pouvoir mener ce concours à bien, à savoir les membres du Secrétariat général du Concours International de Formation Professionnelle, les personnes concernées à l'étranger, le Comité d'Organisation Japonais pour le Concours International de Formation Professionnelle, la Préfecture d'Osaka et les personnes concernées au Japon.

ALLOCUTION DE FELICITATION

YOSHISATO MAEDA

PRESIDENT DE L'ASSOCIATION DE PATRONAT DU KANSAI

Je suis très honoré d'avoir l'occasion de m'adresser à vous au nom des cercles économiques du Kansai pour cette cérémonie de clôture du 28ème Concours International de Formation Professionnelle.

Ce concours a débuté le 21 octobre sous le patronage de Leurs Altesses Impériales le Prince et la Princesse; approximativement 1400 personnes y ont participé et il s'est déroulé avec succès sans le moindre incident, au-delà de nos espérances. Je voudrais offrir mes félicitations les plus sincères à l'occasion de cette cérémonie de clôture.

Je voudrais exprimer tous mes remerciements à de nombreuses personnes. Tout d'abord au Président Albert et au Président Koga, ainsi qu'aux membres des organisations et associations qui ont apporté tous leurs efforts pour patronner et supporter ce concours. En second lieu, aux délégués, officiels et aux concurrents des différents pays participants qui ont donné le meilleur d'eux-mêmes pendant le concours. En dernier lieu, à toutes les corporations et institutions qui ont contribué à cette manifestation en la supportant financièrement, en mettant des installations à sa disposition et en envoyant des concurrents.

Vous n'ignorez pas que le développement de l'industrie et de la technologie est aujourd'hui spectaculaire. Cependant, que serait ce développement sans la sagesse et l'habileté de l'être humain?

Des jeunes travailleurs spécialisés du monde entier se sont réunis pour participer à ce concours; ils ont amélioré leurs techniques de travail à travers les concours et ont approfondi leurs amitiés. Cette manifestation a donc été profitable non seulement pour les participants mais également pour la totalité de nos cercles industriels. Je peux dire sans hésitation que ce concours a grandement contribué à la promotion de la formation professionnelle et à l'amitié internationale.

Permettez-moi de présenter également mes sincères félicitations aux candidats qui ont concouru en représentant leur pays et leurs sociétés, y compris les officiels. Je les remercie de nous avoir montré d'excellentes performances. J'espère qu'ils aideront tous à promouvoir les développements de l'industrie et de la société en mettant totalement à profit ce qu'ils ont accompli lors de ce concours, que ce soit visible ou invisible. J'espère également qu'ils étendront dans le même état d'esprit les échanges internationaux en approfondissant les amitiés qu'ils ont faites pendant cette manifestation.

En dernier lieu, j'aimerais conclure en demandant à tous ceux qui ont honoré la ville d'Osaka de leur visite à l'occasion de ce concours, de ne pas nous oublier, de se souvenir de notre ville et d'y revenir.

ALLOCUTION D'ADIEU

SHIGEICHI KOGA

PRESIDENT DU COMITE D'ORGANISATION JAPONAIS

Le 28ème Concours International de Formation Professionnelle se termine en apothéose. Nous remercions, du fond du coeur, les concurrents, les officiels et les personnes concernées de leur collaboration aimable. Des progrès et des améliorations de techiques de travail ont pu être constatés après la tenue de chacun de ces concours.

Les résolutions de ces compétitions nous impressionnent souvent car tous les candidats fournissent des efforts acharnés pour atteindre le but qu'ils se sont fixés. Ceci est très émouvant pour les personnes impliquées dans ce concours. Nous voudrions rendre hommage à tous les concurrents.

Félicitations également aux candidats qui furent récompensés. Nous sommes désolés du fait que certains candidats n'aient pu, en dépit de leurs efforts, obtenir un prix, mais nous espérons qu'ils feront usage des enseignements de l'expérience acquise pendant ce concours et s'en serviront comme d'une prochaine étape pour obtenir les meilleurs résultats dont ils sont capables.

Ce concours a pu être mené à bien grâce à la bonne volonté et aux efforts de nombreuses personnes de par le monde et nous espérons qu'il restera dans la mémoire de tous. Nous sommes très reconnaissants et fiers d'avoir pu faire de cette manifestation un succès.

Je voudrais, en votre nom à tous, exprimer mon admiration et mon respect à M. le Président Francisco Albert. Pour conclure cette cérémonie, je souhaite que le prochain concours, qui aura lieu à Melbourne, soit également un succès.

Ceremonia de clausura

‹Fecha›
Octuber 27 de 1985

‹Lugar›
International Exhibition Memorial Hall

CEREMONIA DE CLAUSURA

27 de Octubre 9:00 - 11:00 Horas

Maestro de Ceremonias
Hiroyuki Kawakami

No. 1 Fanfare

No. 2 Palabras de Apertura
Koji Ishii, Secretario General del Comité Organizador Japonés

No. 3 Encomio de los Sres. Premiados
Francisco Albert Vidal, Presidente de la Organización Internacional para la Promoción del Adiestramiento Ocupacional,
Shigeichi Koga, Presidente del Comité Organizador Japonés otras Personas

No. 4 Encomio de Premios Especiales
Daniel Sommer, Secretario General del Comité Organizador International

No. 5 Discurso
Francisco Albert Vidal, Presidente de la Organización Internacional para la Promoción del Adiestramiento Ocupacional

No. 6 Discursos de Felicitación
Takashi Taniguchi, Vice Ministro de Trabajo
Yoshisato Maeda, Presidente de la Asociacion de Empresarios de Kansai

No. 7 Palabras de Despedida
Shigeichi Koga, Presidente del Comité Organizador Japonés

No. 8 De Parte del Presidente de Comité Organizador Japonés al Sr. Representante Oficial del Comité del Organizador de Australia

No. 9 Clausura
Koji Ishii, Secretario General del Comité Organizador Japonés

DISCURSO

FRANCISCO ALBERT VIDAL

PRESIDENTE DE LA ORGANIZACION INTERNATIONAL PARA LA PROMOCION DEL ADIESTRAMIENTO OCUPACIONAL

Excelentísimo Ministro de Trabajo
Excelentísimo Gobernador de Osaka
Ilustrísimo Director de la Asociación Japonesa para el Desarrollo de la Formación Profesional
Señor Presidente de la Organización de Empresarios de Kansai
Señores Componentes de la Asamblea de Miembros de la Organización Internacional
Distinguidos Jóvenes que vais a participar en este Concurso
Señoras y Señores

Nuestra Organización Internacional para la Promoción de la Formación Profesional, viene organizando actividades, en torno a la conveniente formación técnica del jóven trabajador, fundamentando las mismas en que, el trabajo supone un quehacer humano: por el trabajo se proyecta la personalidad del hombre; con el trabajo se establece una comunicación inteligente del hombre con las cosas y con el mundo: el trabajo constituye un vínculo con la vida humana como forma reconocida en la sociedad para atender sus necesidades vitales, participando en el logro del bien común, ya que socialmente es un deber, e individualmente es una obligación; con el trabajo se constituye un nexo natural con la propia condición de consumidor y determinando el nivel de vida social.

También consideramos el trabajo como un atributo del hombre, al intervenir en una acción creadora dentro de lo puramente humano, ya que no degrada su condición de persona, sino que la enaltece y prestigia. Con el trabajo, alcanzamos la satisfacción individual del "deber cumplido"; gracias al trabajo supervive la Sociedad, al ser el factor determinante en la producción y ser el fundamental motor de la economía.

Desde hace muchos siglos, hombres de extraordinario prestigio mundial, como coautores de las civilizaciones de Oriente y Occidente, nos dejaron como legado, los conceptos que ellos tenían del trabajo. Alguien dijo que "Dios puso el trabajo como un centinela de la virtud" que "quien cultiva el campo del trabajo no hace mal a nadie"; que "todo lo vence el áspero trabajo, ayudándonos a satisfacer las necesidades que nos crean los problemas que nos fatigan", y también alguno de estos sabios antecesores llegó a exclamar "¡¡Sorpréndame la muerte en medio de mi trabajo!!"

Nada nuevo ni original pretendemos patentizar, al exponer estos conceptos morales sobre el trabajo: pero si queremos fundamentar en ellos, los principios y objetivos que desea alcanzar nuestra Organización Internacional.

Para que el trabajo se ejerza desde la juventud, con eficacia y trascendencia social, es preciso que se forme al hombre que lo ha de realizar. Venimos observando que, en gran número de Países, las ensenanzas de formación profesional, no gozan del prestigio conveniente, ni de la atención social que merecen. En la mayoría de ellos, se atiende perfectamente, y ello es justo también, la enseñanza universitaria, la ensenanza técnica superior, la investigación científica etc. pero lamentablemente, en esa mayoría de Países, la ensenanza de formación profesional queda postergada o en su caso minimizada.

Si con el trabajo, en cualquiera de sus acepciones, se tiene que contribuir al bienestar de la Sociedad, nunca lograremos tal bienestar, sino formamos al hombre que lo tiene que ejercer: debe ser la propia Sociedad la responsable de esta posible deficiencia. Sin un trabajador bien formado, técnica y humanamente, ni obtendremos el necesario desarrollo tecnológico y consecuentemente tampoco lograremos el progreso económico deseado y preciso. Sino se forma al trabajador, no contribuiremos a su realización humana. Si el trabajo, como atributo humano,

lo consideramos como una de las virtudes de la persona, será en tal caso obligación de la Sociedad, pretigiarlo y dignificarlo, otorgando a todo el proceso formativo el rango que socialmente merece.

Esta es una de las primordiales inquietudes que mueve a nuestra Organización Internacional. Pretendemos fomentar el ambiente adecuado para que los Organismos Gubernamentales, las Entidades Empresariales, los Sindicatos y la Sociedad entera, adquieran las obligaciones y responsabilidades precisas, para formar al trabajador desde su juventud, como hombre que tiene derecho y también tiene obligación de contribuir, con su esfuerzo moral y físico, al bien común.

Terminamos de conocer los resultados alcanzados por los 307 participantes en este XXVIII Concurso Internacional de Formación Profesional. Con ello hemos cumplido, una vez más con el primordial objetivo dispuesto en nuestro ordenamiento constitucional. Además de este actividad del Concurso, nuestra Organización Internacional, tiene que desarrollar otros objetivos, con los que procurar la promoción de la formación profesional en el mayor numero posible de países. Para ello tenemos el proyecto de realizar, en un futuro inmediato, las siguientes acciones.

Ofrecer nuestra cooperación técnica a países de America del Sur, intensificando los Concursos Latino-Americanos que actualmente se vienen organizando, procurando un entendimiento tripartito con la Organización Internacional del Trabajo, con las Organizaciones Empresariales y nuestra Organización Internacional.

Gestionar, con la cooperación de la Organizacion Internacional del Trabajo, la posible y futura integración de países del Continente Africano, en nuestra Organización.

Realizar los adecuados contactos para, con la documentación e información necesaria, procurar la expansión de los diversos sistemas de formación profesional, de que disponen países con gran potencial industrial, en aquellos otros subdesarrollados o en vías de desarrollo.

Organizar, próximamente, un Congreso Mundial de Formación Profesional para poder lograr las orientaciones que podría seguir nuestra Organización Internacional para que, con adecuadas recomendaciones:

A) Situar las enseñanzas de formación profesional en el rango social adecuado.
B) Adoptar los medios de información y documentación, sobre las metodologías más idóneas para impartir dichas enseñanzas.
C) Considerar las formas de preparación de instructores.
D) Planificar la adaptación de la formación profesional al contínuo progreso tecnológico.
E) Estudiar el problema social existente, creado por el desempleo juvenil en muchos países, y recomendar los posibles medios para resolverlo.
F) Analizar las atenciones que se debieran prestar, a todos niveles de cada Estado, para la financiación de estas enseñanzas, y, en general, disponer todos aquellos temas que a criterio de los directivos del Congreso, pudieran ser de interés para la formación profesional de la juventud.

Estimados jovenes que habéis partipado en este XXVIII Concurso Internacional de Formación Profesional. Nos habéis mostrado vuestras facultades, por los trabajos que habéis realizado; vuestra participación os ha proporcionado una vivencia que jamás olvidaréis; habéis contraído lazos de amistad, sin obstáculo alguno, que perdurarán en el tiempo como un recuerdo para vosotros muy estimable; suponemos que habréis llegado al convencimiento de que el trabajo produce personales satisfacciones.

A los que obtuvísteis algún premio, os expresamos, en nombre de los señores componentes de esta Organización Internacional, nuestra cordial felicitación. A los que no lográsteis algún premio, también os felicitamos, ya que por el solo hecho de participar en el Concurso, habéis obtenidoun estímulo con el que afanaros para alcanzar mejores metas y perfeccionar vuestros conocimientos.

A los Señores Expertos Técnicos, Miembros de los Jurados que organizaron las pruebas y las calificaron, queremos expresarles nuestro reconocimiento por la eficaz labor realizada, a la vez que desearles que, este intercambio de metodologías docentes que suponen los Concursos, os sean útiles para intensificar y perfeccionar vuestros conocimientos, en las tareas formativas que ejercéis con la juventud trabajadora.

Estimo que es justo reconocer en este acto, el meritorio y eficaz trabajo realizado por la Secretaría General de nuestra Organización Internacional, bajo la dirección inteligente de Don Daniel Sommer, y también la de sus inmediatos colaboradores, ya que toda su función administrativa y la de coordinación con los Comités Internacionales y con el Comité Nacional Japonés, han sido un exponente de una buena organización, que ha contribuído notablemente en los óptimos resultados que todos hemos apreciado en este XXVIII Concurso.

Finalmente, también es justo, exponer el agradecimiento de nuestra Organización Internacional al Excmo. Sr. Ministro de Trabajo, al Excmo. Sr. Gobernador de Osaka y los Círculos de Empresarios de Japón que con un muy eficaz grupo de colaboradores, aportaron muchos esfuerzos personales, tecnicos y economicos, por el mejor éxito de este XXVIII Concurso.

A los inmediatos ejecutores del perfecto desarrollo y organización, bien patentes en estos días del Concurso, Sres. Ishii, Eda, Mori y Miyamori, bajo la sabia dirección del Ilustrísimo Sr. Koga, nuestra efusiva felicitación y sincera gratitud.

Esperamos haber alcanzado una cota más elevada en los objetivos fundamentales que nuestra Organización Internacional se propone lograr, con la ilusión de prestar un servicio a la juventud que contribuya a su formación y su bienestar social.

En nombre de la Asamblea de Miembros de la Organización Internacional, declaro clausurado el XXVIII Concurso Internacional de Formación Profesional.''

DISCURSO DE FELICITACION

TAKASHI TANIGUCHI

VICE MINISTRO DE TRABAJO

Es para mí un gran privilegio el poder dirigirme hoy a todos ustedes en esta ceremonia de clausura del XXVIII Concurso Internacional de Habilidades Técnicas Ocupacionales.

Con la participación de aproximadamente 307 jóvenes trabajadores, originarios de dieciocho países y varias regiones del Japón, y de numerosas personas relacionadas, este concurso ha llegado a su término con el esplendor y grandeza propios de un festival internacional de jóvenes profesionales. Quisiera felicitar en general a todos los participantes que durante este concurso han competido valerosamente, demonstrando el gran nivel de su formación profesional con ese espíritu deportivo, propio de la juventud. En especial, quisiera felicitar a aquellos concursantes que han sido premiados por su destacada actuación.

Permítanme que les recuerde que el objetivo de estos concursos es la promoción de la formación profesional en todos los países participantes, facilitar el intercambio de conocimientos técnicos y fomentar la comprensión mútua y amistad entre la juventud trabajadora. Estoy completamente convencido de que este concurso, el acontecimiento más importante organizado en el Japón en este Año Internacional de la Juventud, ha conseguido plenamente sus objetivos y ha contribuido en la medida de su importancia al logro de su objetivo final, que es la paz y prosperidad para todo el mundo.

Es mi más ferviente deseo que todos y cada uno de los participantes sepan sacar el máximo provecho de los frutos obtenidos, haciendo esfuerzos para mejorar aún más su nivel profesional y contribuir al desarrollo industrial de sus países respectivos. Distinguidos concursantes, procurad que esta llama de amistad, que juntos habéis prendido durante estas días, no se extinga prematuramente, sino que por el contrario, la llevéis donde quiera que vayáis.

Por último, quisiera presentar mis respetos a todas aquellas personas sin cuyos esfuerzos no hubiera sido posible poner en marcha este concurso; me estoy refiriendo a los miembros de la Secretaría General del IVTC, a todos los colaboradores de ultramar, a los miembros del Comité Organizador Japonés, a la prefectura anfitriona de Osaka y a todos demás que colaboraron en esta noble empresa.

DISCURSO DE FELICITACION

YOSHISATO MAEDA

PRESIDENTE DE LA ASOCIACION DE EMPRESARIOS DE KANSAI

Es un gran honor, a la vez mí un gran placer, para mí, aprovechar esta oportunidad que se me brinda para dirigirme a ustedes, a nombre del sector económico, en esta ceremonia de clausura del XXVIII Concurso Internacional de Entrenamiento Profesional.

Este concurso se inició el 21 de octubre bajo la honorable aistencia de Sus Altezas Imperiales el Príncipe heredero y la Princesa, contando con la participación de 1,400 personas aproximadamente. No es necesario que les recuerde la gran solemnidad de la ceremonia de apertura que dió paso al concurso. Quisiera hoy aprovechar este acto de clausura para expresar mis felicitaciones y agradecimentos a muchas personas. En primer lugar, al Presidente Albert y al Presidente Koga, juntamente con los miembros de todas las organizaciones y asociaciones que se han esforzado en patrocinar y apoyar la celebración de este concurso. En segundo lugar, quiero extender mi agradecimiento a los delegados, oficiales y concursantes de los paises participantes, quienes han competido tan activamente en este concurso. Por último, y no por ello menos intensamente, quiero agradecer a todos los organismos e instituciones que han enviado competidores, contribuído económicamente, y facilitado instalaciones.

Ya no es ninguna novedad para nadie el desarrollo espectacular de actuales tecnología e industria. La base principal de este desarrollo está radicada en gran parte en la inteligencia y pericia técnica de los hombres tales como las hemos visto en este concurso.

Jóvenes bien preparados de todo el mundo se han reunido en este concurso, han encontrado aquí muchos nuevos amigos y perfeccionado su habilidad técnica a través de la competencia. Los frutos de este encuentro no sólo son relevantes para los concursantes, sino también para el mundo industrial en su totalidad.

Puedo, sin lugar a dudas, asegurar que este concurso ha contribuido substancialmente a promover el entrenamiento ocupacional y la amistad internacional.

A continuación, quiero expresar mi más sincero agradecimiento a todos los concursantes que tan lúcidamente han demostrado sus habilidades técnicas en representacíon de sus respectivos países, y a todos aquellos que de una ú otra forma han contribuido oficialmente. Les agradezco por habernos mostrado un buen concurso. Espero que todos ustedes sean partícipes activos en el desarrollo industrial y social de sus respectivos países, aprovechando toda la experiencia ganada durante estas jornadas, sin olvidar el espíritu de solidaridad internacional, fortificado aquí con sus experiencias de estos días pasados.

Y para terminar, espero que todos ustedes que han tenido a bien honrarnos con su amable presencia, se lleven un grato recuerdo de la ciudad de Osaka y que vuelvan a visitarnos algún día.

PALABRAS DE DESPEDIDA

SHIGEICHI KOGA

PRESIDENTE DEL COMITE ORGANIZADOR JAPONES

El XXVIII Concurso Internacional de Formación Profesional ha concluído con éxito. Quisiera agradecer sinceramente la cooperación sin límites de todos los concursantes, de los oficiales, y de todas las personas que de uno u otro modo han ayudado.

Cada vez que se han organizado estos concursos, se ha podido constatar una mejora en el adiestramiento profesional de los concursantes. A menudo, hemos quedado impresionados con el tesón y la constancia que han demostrado. Todos los concursantes han realizado un esfuerzo gigantesco en la consecución de sus objetivos, esfuerzo que nos ha impresionado vivamente a todos los que hemos asistido al desarrollo de este concurso. Nos place enormemente honrarles hoy con nuestra más profunda admiración.

Deseo felicitar cordialmente a los concursantes que han sido premiados. Pero también quisiera tener unas palabras de aliento para todos aquellos, quienes a pesar de sus duros esfuerzos, no han obtenido ningun premio. Para ellos, en especial, espero que este concurso les sirva de estímulo para un mayor éxito profesional.

Los esfuerzos y la buena voluntad de innumerables colaboradores de todo el mundo, han hecho de este concurso un éxito rotundo. Es nuestro deseo que todos quienes han asistido a estas jornadas se lleven consigo un recuerdo peremne de las experiencias que juntos hemos compartido. Una vez más, deseo manifestar nuestro agradecimiento y enorme satisfacción por la forma tan constructiva que ha tomado este concurso.

Para concluir, quisiera expresar personalmente y a nombre de todos los presentes, el gran respeto y admiración que sentimos hacia la figura del presidente Sr. Francisco Albert, así como manifestar nuestros profundos deseos de éxito para el próximo concurso, que tendrá lugar en Melbourne.